

第11回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会事務局」 〒540-8508 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株) サクラクレパス内
TEL: (06) 6910-8800 FAX: (06) 6910-8837

2009年9月発行

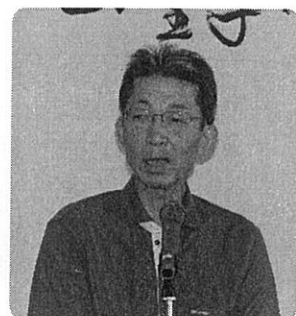
2009年 対面の会

今年も留学生さとおやの会対面の会が6月27日(土)大阪商工会議所で行われました。今年受け入れる留学生は30名です。

幹事の日下淑子さんが司会を担当、西村代表幹事挨拶の後、大阪商工会議所常務理事西田賢治様より来賓としてのご挨拶をいただきました。対面式のアシスタントには、昨年度受け入れた中国からの留学生劉鑫 (リ

ユウシン) くんが駆けつけてくれました。緊張の中の対面式の後にはそれぞれの親子で懇談会を持ちました。

また、今年は大阪商工会議所様のご厚意により、里親と留学生を「企業家ミュージアム」にご招待いただき、対面の会終了後、揃って企業家ミュージアムを見学しました。



A Letter about Nishimura Family

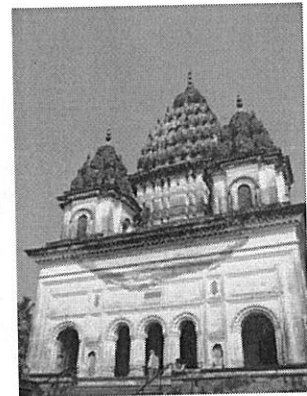
里子：サイド サイドザマン
【バングラデシュ】

After winning Japanese Government Scholarship for my doctoral education in the field of nanotechnology at Osaka University, I went Osaka in October 2004 and started my research work at Graduate School of Engineering, also I have tried to learn Japanese language for daily life at IC Hall. Later on, during full stream of hard research work at engineering school, I felt to have a family life in Osaka. Luckily, I have got Nishimura family to share family life in a busy city like Osaka. From my point of views, Nishimura family is one of the best sober, kind and royal family in the world to share family life. Almost once in a month we met in home for dinner and enjoyed about diversified cultural food, talk, problem and solutions. Sometimes we went for long tour and over night stay on a mountain, like Rokko Mountain and other fascinating places. At the time of my stay in Osaka, I have got a lot of family support from my sisters and friends encouraging to my scientific research at university, which are now become the unique memories of my successful doctoral life. Day by day after finishing my education at Osaka University, I have found a established relationship with Nishimura family, Grandmother, Father, Mother, Sisters and brothers. I miss them all and hope that we will have the relationship forever.

With all of my best wishes,



左から1人目がサイドさん



サイドさん

里親：西村 孝子

サイドさんとの出会いは2005年大阪大学の留学生ホストファミリープログラムでした。初めて甲子園に彼が遊びに来た日に、私は宗教上の理由で豚肉が食べられない彼の為にチキンカレー、ドライカレー、ナン（ナンミックスを使って）等、スパイシーな料理を作りました。その時サイドさんの真似をして主人、母、私は手で食事をしました。初めての事で、ご飯とカレーを手で混ぜて指先にのせていただく事がこんなにも難しい事なのかとわかりました。サイドさんは上手に指でまとめていて指も汚れないのですが、私たちはボロボロとこぼれるし、手はベタベタになりました。でも何か不思議な感覚で、楽しい思い出となりました。それ以来、月一度の食事会に参加するようになり、家族と他の留学生たちとの交流が始まりました。留学生さんとおやの会主催の秋の遠足や新年会にもいつも参加して楽しんでいました。

普段は大学の食堂で食事をしていて料理など作ったことのない彼が一度、インターネットでバングラディッシュの料理の作り方を調べて、材料も持ってきて私たちの為に初めての料理を作ってくれました。ギーを使い、いろいろなスパイスの入った、なかなかいただけない本格的なもので、感激して皆でおいしく頂きました。

彼は大学院の研究生でしたので熱心に勉強して、筑波大学はじめいろいろな学会で研究発表をしていましたが、今年の2月、5年間の研究を終えてバングラディッシュに帰国しました。彼の暖かい人柄で私たち家族や他の留学生たちにいっぱい思い出を残してくれました。私たちはサイドさんのますますの活躍と幸せを願っています。

里親

私たちは女性コーラスを母体としたボランティアグループです。あの阪神大震災を機に、何か少しでもお役にたてればと「さとおやの会」に入会させていただき、七年になろうとしています。

今年も中国から3人の里子ちゃんをお迎えし、「言葉通じるやろか?」と心配している私たちに、なんとも流暢な日本語でのご挨拶にびっくりさせられました。来日してわずか1年程の間にアジアの文化や日本語のお勉強に、努力に努力を重ねてこられた結果だと感心しています。

そんな彼らと少しでも多くの機会を持てればと、ふれあい独楽主催の「室内コンサート」や「落語の会」にお誘いしたところ、8月1日(土)古川忠義氏の「ギター演奏会」に来てくれることになりました。当日は会場の皆様に堂々と日本語でご挨拶もし、その後は皆さんと一緒に歌ったり、お話をしたりと楽しく過ごすことができました。また、将来の夢についてもいろいろ話してくれました。

ともあれ、日本の大学進学を目指して頑張っている彼らに微力ながら、外野席から応援歌を送りたいと思います。

ふれあい独楽【寝屋川市】



里子

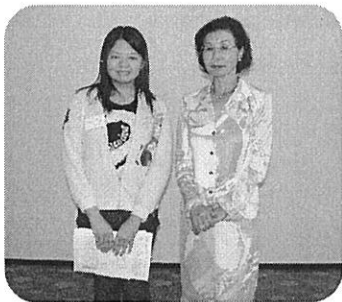
私の里親の経験

留学生里親の会の日は本当に楽しかったです。場所もとてもきれいでした。その日、金城明美さんと初めてお会いしました。私の里親さんです。最初は、私は金城さんがちょっとこわかったんです。それはとても偉い人みたいだったからです。緊張しました。はじめに私は何も言わず、簡単なあいさつだけでした。私は日本語が上手じゃないからです。しかし金城さんは急に英語で話してくださいました。私はびっくりしました。それから私たちは色々なことを話すことができました。例えば家族のことや趣味のこと、国のことなどを話しました。とてもおもしろかったです。金城さんはとても優しい方です。それにたくさんのご存じです。ですから話がおもしろいです。対面式の日はそのほかにも色々な人と話すことができ、楽しかったです。おいしいお菓子も食べられて幸せな一日になりました。

対面式の後でみんなで近くの大阪産業創造館へ行きました。そこで短い映画を見ました。全部日本語でしたからあまりわかりませんが、金城さんが英語で説明をしてくださいました。金城さんのおかげで内容がよく分かりました。博物館の後フィリピンから持ってきたおみやげを金城さんに差し上げました。

それからしばらくして、私は金城さんの家に招待していただきました。里子の兄弟たちとも会いました。金城さんの家はとてもきれいでした。そこで色々話して、ケーキをいただきました。その後レストランへ連れて行っていただいて日本で初めてのすきやきを食べました。とてもおいしかったです。食べながら日本のこと、韓国のこと、フィリピンのことなどを話しました。その日の帰りにはおみやげまでいただき、ほんとうにうれしい一日でした。

私の日本での里親の経験は楽しくておもしろいです。これからもっと金城さんや里子の兄弟たちのことを知りたいと思っています。



カラカマ サヨリ【フィリピン】

里親さんとの交流

昨年の10月に私は留学の為に日本に来ました。私は日本に来てから日本語を勉強し始めたので、初めはひらがなも読めませんでしたが、半年ほどたって、少し話せるようになりました。日本語の発音は思ったよりむずかしく、聞き分けがどうしてもできません。先生以外の日本人は話すスピードも速いし、分かりにくいことが多いです。ですから、日常生活で日本人と話すチャンスは本当に少なくて困っていました。

ある日、担任の先生から「留学生さんとおやの会」で里子を募集していると聞き、申し込んでみることにしました。希望者が多く、先生はくじ引きで決めることになり、私は運よく当たり選ばれました。

6月27日に「対面の会」に参加し、初めて里親さんにお会いしました。その日は里親さんとよく話しました。私はこの活動に参加し、もっと日本の文化や習慣を知りたいと思っています。里親さんにいろいろな日本の慣習を教えてください、有意義な交流ができるように願っています。日本に来て間もなく1年になりますが、来日したばかりのころは日本での生活はさびしく不安でした。今は日本の生活にも慣れ、たくさん友達もでき、楽しく過ごしています。里親さんと出会うことができ、本当に良かったと思います。次にまたお会いできる日を楽しみにしています。

林 嘉君【台湾】



左から1人目が林 嘉君さん

里子

里子になって～新たな道～

トン ホセ【フィリピン】

約二ヶ月前に私は西村家の里子になりました。この特別な機会を貰って光荣だと思います。日本での一人暮らしは少し淋しいです。住んでいる寮では沢山の友達がいますが、時々フィリピンに居る家族を思い出します。西村家に出会って、ホームシックの私が徐々に馴染み、安心感が生まれ、まるで本当の家族のようになりました。寮に住んでいる人達は全員それぞれの国から来ましたので母国語で話す事ができません。彼達は私と同じくまだ日本語を勉強し始めたばかりなので、日本語より英語で会話する事が多いです。

西村家では、色んな事を日本語で話しています。日本の文化や、習慣も学ぶ事ができました。西村家と夕飯を食べるのも毎回楽しみにしています。まるで自分の家族と夕飯を食べているようで、とても居心地が良いです。日本食は自分の国と全く違いますがとても美味しいです。一番最近、西村家で手巻きずしをいただきました。他の里子とスーパーで生海鮮や他の材料を買いに行きました。夕飯前の準備と食後の片付けもお手伝いさせていただきました。普段は自分でお寿司や和食を作って食べる事がないので、非常に嬉しかったです。勉強にもなりました。

しかし困った事もありました。それは里親との会話が非常に難しいことです。日本語を勉強し始めて約5ヶ月になりましたが、教科書以外の事はまだ習っていないため理解する事が大変でした。時々自分の気持ちや意見をどう日本語で表すか困りました。習った言葉だけの表現で通じる事もありましたが、そのまま言わない時もありました。困りながら一生懸命里親と会話をしました。日本語を喋る度に緊張感は少なくなってきました。私が全く違う世界で違う言葉で会話しているのが不思議で仕方ありませんが、それが今の私が生きている世界です。人はなかなか完璧にはなれないけれども、それを目指してこれからも一生懸命頑張りたいです。



左から2人目がトン ホセさん

留学交流

独立行政法人日本学生支援機構が編集、発行されている雑誌「留学交流」6月号に西村貞一代表幹事の投稿記事が掲載されましたので、ご案内いたします。

留学生さんとおやの会も七年目を迎えることができました。これもひとえに皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。今年も対面の会を無事に終え、この後は秋の遠足、新春の新年交流会を計画しています。順次ご案内しますので、ぜひご参加ください。また、最近では里親さんが減少傾向にあります。本会に興味をお持ちの方をお知り合いの方をご紹介しますよう、よろしく願っています。

年2回発行の会報誌に里親さんや留学生の方からの投稿をお待ちしております。日々感じた事や交流の際のトピックスなど、何でも結構です。手元に原稿がない時は会員の皆さん順番にお願いしています。依頼が舞い込んできた時には、どうぞお引受けの程よろしく願っています。

編集後記

平成9年大阪商工会議所留学生委員会の委員長を拝命し、その時薦められるままに里親に登録し初めて里子を持ちました。その後、平成15年に大阪商工会議所の事業撤退を受けて、ボランティアの方々と留学生さんとおやの会を立ち上げ、現在までに約30名の留学生をお引き受けしました。

始めはどう接したらよいかかわからず、緊張しましたが、今ではほぼ月1回留学生を家に呼んで食事会をしています。特別な料理を用意するのではなく、普段食べている家内手作りの家庭料理を食べています。時には留学生にお国の自慢料理や家庭料理を作ってもらったりもします。一緒に買い物に行き、材料を選んで、料理を指南してもらい、ワイワイ言いながら作り、どんな味が恐る恐る試食をして楽しく過ごします。我が家の料理のレパートリーも餃子から中国、韓国、タイ、バンラデッシュ料理まで増えたのも思わぬ効用です。又、里子の結婚式に出席したり、結婚後再来日して子供を見せてくれたりと、おじいちゃん、おばあちゃんの気分も味わったりもしています。

「留学生さんとおやの会」ではホームステイではなく、寮やアパートに住居を持つ留学生をホームビジットとして受け入れています。ちょっとした不安や解らない事にアドバイスをしたり、日本家庭を紹介する事を主としています。肩肘張った交流ではなく、ありのままの日本家庭を見てもらい、親しんでもらう事が真の国際交流なのでは？と思っています。扉を開いて留学生と交流する事で、新たな世界が開けてきます。皆さんも里親を始めてみませんか？

* * * *

株式会社サクラクラス取締役社長、大阪商工会議所副会頭。

橋を架ける人 146

西村貞一

留学生さんとおやの会
代表

